

会告

第6回後期(2002年冬季)認定輸血検査技師試験の結果

1. 実受験者数：111名
 - ・ 受験申請者：120名
 - ・ 受験辞退者(事前連絡あり)：3名
 - ・ 当日欠席者(連絡なし)：6名
2. 試験結果
 - 1) 筆答試験 (前期試験結果)
 - ・ 最高点：86.0 (85.8)
 - ・ 最低点：32.9 (38.1)
 - ・ 平均点：57.3 (62.5)
 - ・ 中央値：57.0 (63.2)
 - 2) 実技試験 (前期試験結果)
 - ・ 最高点：94.0 (98.2)
 - ・ 最低点：0 (0)
 - ・ 平均点：36.5 (51.3)
 - ・ 中央値：35.0 (58.2)
3. 総合判定：筆答試験、実技試験とも合格した受験者数は22名(合格率19.8%)
4. 試験概要と成績について

1) 試験概要

第6回後期試験は、2002年12月21、22日、東京慈恵会医科大学を会場に再受験申請者を対象として行われ、合格率は19.8%(22/111名)であった。内訳は、今回が2回目の受験者の合格率が22.2%(14/63名)であったのに対し、3回目の受験者では16.6%(8/48)と低かった。何れにしても再受験者が対象とはいえ、残念ながら過去最低の合格率となった。

2) 筆答試験

得点分布は前期試験とほぼ同じであり、受験者はよく勉強して試験に臨まれたようである。強いて言えば輸血効果の予測(計算)が出来ない受験者が目立った。

3) 実技試験

合格者と不合格者の間で著しい較差が見られ、平均点は前期試験に比し15点も低下した。筆答試験高得点者の中にも実技試験が出来ない受験者が散見され、実技試験の成績不振が合格率の低下の大きな要因となった。採点基準、方法等は既に本誌第48(3)の会告に掲載されているので、再受験者は熟読されたい。特に血液型判定と解釈に実技試験総得点の約半分が与えられおり、大減点項目に該当する答案に対しては厳しい評価となる。また答案の書き方であるが、読みやすく書く必要がある。検査結果のレポートを受け取った臨床側が判読できないようでは困るし、他の検査技師が解釈出来なくても困る。標準学術・検査用語、表記法を用い、枠内に整理して簡潔に収めることも能力の一つである。枠からはみ出し、びっしり書いても、ポイントが欠落していれば得点は得られない。試験では与えられた試薬・機器を用いて、決められた方法・手順に従い時間内に答えを出すものであり、正確な判定は勿論、それが正しく解釈され臨床に有効に反映されねばならぬ事を再認識して頂きたい。